

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2671200117		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森 平尾		
所在地	京都府宇治市平尾台一丁目3-8		
自己評価作成日	平成4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671200117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671200117-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅浜町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和4年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅地の中、民家改修型の建物で段差、階段もありますが、身体機能の維持を自然と行え、とても落ち着いた雰囲気が入居者様は、今まで過ごしてきた自宅のような家庭的な環境で自分の居場所、役割を持って過ごして頂いています。開設22周年を迎え、職員も2年以上～20年以上勤続者まで年齢、経験も幅広く、何事も話し合い、意見を交わし合える環境、チームワークで入居者様の思いに寄り添い「笑顔と安心の暮らしの継続」を支えております。今年目標は、「笑顔と安心の共同生活」として頂いています。新型コロナウイルス感染症予防のため、外出も控えざる負えない状況です。室内で楽しみを見つけ、季節の花を飾ったり、食事を工夫したり、季節感を感じて過ごして頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

日本家屋の事業所は、縁側にテーブルと椅子を置き、手入れの行き届いた庭が望める環境で、懐かしさを覚えます。管理者の方から、「今日、この縁側でバーベキューをする」企画を聞かせてもらいました。コロナ禍で、出来ないではなく、公園サロンでの交流や作業所のパンを利用者が選び購入でき、絵画教室、運営推進会議もオンラインで参加が出来るようにされています。そして、地域の方にZOOMで繋がるように、職員が家庭に設定に行き、ご家族には利用者のことについてはLINEで交換ができるようにされています。また、利用者の思い出作りを企画して、一人ひとりの行きたいところや会いたい人、やりたいことを個別計画にのせて実現されています。日々の生活でも、利用者の楽しさ探しをして、笑顔の写真をたくさん残されるなど、「笑顔と安心の共同生活」を職員のチームワークの中で実践されているグループホームです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」認知症介護の理念「個性豊かに私らしく」と掲げている。また、毎年、ユニットの目標を職員間で話し合い決め、今年度は「笑顔と安心の共同生活」に対する行動指針を意識している。	法人理念を相談室に掲示し、介護理念はホームページに掲載して家族、地域、職員の目にふれるようにしている。また、ユニットの目標「笑顔と安心の共同生活」を広報誌やリビングに掲示すると共に、目標に対しての行動指針を「利用者のニーズの把握」「ADL維持」「危機意識」として掲示し、支援に結び付けられるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徐々に再開されつつある学区福祉委員主催の「公園サロン」に参加をし、地域住民との交流を持つ機会を作っている。	チラシの掲示で、公園サロンの再開を知り昨年の秋ごろから、コロナ禍の合間を見て参加をしている。主催者の学区福祉委員とは馴染みの関係になり、顔見知りの地域の人や子ども達とも言葉を交わせる場になっている。地域の4カ所の高齢者事業所(オンラインでつながっている。)と一緒に、育友会から小学校の七夕イベントへの飾りの寄付を提案してもらい、利用者と一緒に作り七夕飾りを小学校に持って行った。小学校では、子ども達に高齢者事業所の紹介をもらい、お礼の手紙を利用者と一緒読んでリビングに掲示している。作業所のパン販売も駐車場で再開し、利用者は好きなパンを選べるので、大好評である。重度の寝たきりの利用者もパンを選んでいる笑顔の写真が広報紙に掲載されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校育友会の方の運営推進会議の参加で子供のパトロールだけでなく高齢者にも声掛けなど目をむけるように、呼びかけるようにと話して下さった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を奇数月に開催し、事業所の活動報告や法人の取り組みを報告している。新規入居者様が居室にこもりがちな課題について、継続的に状況を報告、意見交換を行った。	運営推進会議のメンバーは地域の方(5名)、宇治市担当課職員、東宇治北地域包括支援センター職員、家族だがグループホームの家族は書面開催になってから、足が遠のいてしまっている。議題は入居者状況、行事報告、事故・ヒヤリハット、感染症、苦情、行政対応、職員の異動、困難事例、今月の予定などで、多岐にわたっている。地域の方もたくさん参加され、地域の情報やたくさんの意見を載せた議事録を作成されている。運営推進会議はオンラインを取り入れ、書面・対面開催時も共に併用している。作業所のパン販売の再開や、育友会の夜回りの時に高齢者の見守りや声掛けなど、会議の中で話が出て、地域の中での見守り枠が広げられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍、運営推進会議の開催について書面だけでなくオンラインなど活用すればと意見を頂き開催について多面的に考えられた。	宇治市の担当課は運営推進会議のメンバーでもあり事業所の状況は良く知ってもらっている。運営推進会議の開催をオンラインでおこなう提案を取り入れている。議事録は窓口を持って行っている。地域包括支援センターからの依頼で「認知症と家族の会の研修」年6回の内1月に講義をする予定である。介護相談員は今年度もオンラインで話を聞いて貰っている。宇治警察署から地域向けの「安心ニュースをもらって、外の掲示板に貼り出している。また、SOSネットワークともつながり連絡が入ってきている。など、協力関係が築けるように積極的に取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に「身体拘束は行わない」と説明をし、職員には毎年2回研修を実施し、周知徹底を図っている。施錠については危険とみなす場合や時間帯で対応している。	身体拘束適正化委員会・高齢者虐待委員会は、各ユニットから1名の職員が参加し、3ヶ月毎に開催している。話し合ったことは、全職員に報告、押印をもらっている。職員は年1回自己評価(自己チェック表)をおこない、委員会が収集・検討分析して、フィードバックしている。年2回開催の身体拘束・高齢者虐待の研修を受講し、報告書の記入によって、より確かなものになっている。玄関は見守りが出来る体制の時は施錠せずに過ごし、利用者が不安になられた時は、一緒に外に出かけ気分転換が出来るように、職員が連携をしている。職員が言葉として言わなくても、心の声「もうー」など聞こえた時は管理者が注意をしている。家族とは、入居時に身体拘束をしないケアについて伝え、リスクについても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で身体拘束禁止虐待防止委員会を設置し、定期的に各ユニットの現状確認を行い、全職員に「自己チェック表」を配布し、自分の行動を振り返る機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族間の関係により話し合い、必要に応じて市の窓口へ相談、後見制度の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、不明点はないか確認しながら同意を得て契約を交わしている。入居後も介護保険法改正にて料金体系の変更に説明、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは連絡を密にとり報告や協力を依頼、また相談を行っている。運営推進会議を書面で行い意見をもらい検討に繋げている。	家族とは利用者のことをLINEで連絡をしあい、聞いたことは支援経過に記入し、職員で共有している。コロナウイルス感染症流行時から、運営推進会議が書面開催になったり、面会が出来ないことで、家族とは疎遠になりがちであるが、敬老会や誕生会に一人、10分から15分位オンラインで話ができるように計画をして、事前に家族一人ひとりに声をかけスケジュールを組んで実現した。事業所から家族への通信は毎月担当職員が渡している。面会はオンライン電話でおこなっているが、家族の希望で、窓越し面会もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内で業務改善について話し合い、管理者は、法人の会議で報告している。また、個々の職員が投書できる意見箱を設置したり、ハラスメントアンケートを実施している。	職員の意見はユニット会議の「業務改善」で話し合い、法人の会議で報告している。職員用の意見箱を設置しているが、利用はない。ハラスメントアンケートは法人の連絡ツールチャットワークでおこない、集計・検討してフィードバックされている。職員から「年末の賞与について」の意見に対して、今年度から反映する段取りをされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回評価を行い、個々の能力を把握し、やりがいや資格取得等目標を定め、モチベーションの向上に導いている。キャリア形成を構築している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や役職にて階級別に研修を計画し、また、研修の案内を掲示し、自ら望む研修の参加ができ、知識や技術を得られる機会等、自己啓発に導いている。キャリア段位制度を取り入れる準備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流できていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人様の入居に対しての不安や家族様との情報交換を慎重に行いそれまでの生活を踏まえたケアプランを作成することにより入居への安心を確保する関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面接・契約時等に家族様の希望や不安や思いを聞き、家族様の気持ちも尊重し、電話連絡等、常に相互に話し合える環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時支援する事、本人様の出来る事を見極め家族様、医療機関・他の専門機関等の意見も取入れ、地域の社会資源も活用して（今年はコロナで不可）繋がりを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の個性や生活歴を尊重し、残存機能を維持できるように自分で出来る事は本人様にして頂き、出来ない事はサポート、寄り添い家族のような暮らしを共にする信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が安心して生活出来るよう家族様にはオンライン電話や動画、手紙での近況にて現状報告し、家族様と本人様の絆が途切れないよう連携や協力も頂き共に本人様をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では“コロナ禍”で活動の自粛となっているが、今までは、地域の行事やボランティア参加を楽しんでいた。（お茶会・生け花・絵手紙・絵画教室等）。本人様の今までの生活での関係が途切れないようオンライン電話などで支援に努めている。	契約時に生活歴や生育歴、生活状況を聞き取り、アセスメントシートに記入して共有している。日常生活の中で利用者から聞いたことはケース記録に記入し、家族とのやり取りは支援経過に記入して職員で共有し、利用者の馴染みの関係が途切れないように努めている。思い出づくりを計画し、懐かしの大学のキャンパスに行ったり、家族に会いに行ったり、おしゃれの好きな方は、ネイルサロンにお連れしている。孫の結婚式には職員がついて行っている方もある。また、同法人の小規模多機能事業所から入居された方は、職員に来てもらい関係を継続されている。など、コロナ禍の中で、感染者が少なくなっている時に、感染予防を十分にして取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立しないよう気の合う、話が合う方同士で家事やレクをして交流を深めていただき、何かあれば支え助け合えるような関係が築けるよう配慮、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本に様や家族様の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	課題が見つければその都度、ミニ会議や朝礼時に現状を話し合い修正する。多職種の毎月のカンファレンスでも気付きを考察して、今一番何が大切かを話し合っている。	利用者・家族には、契約時に今迄の生活の様子や家族との関わりを伺って、アセスメントシートに記入し、日々の生活の中で、本人の意向を引き出せるようにし、多職種で開催するカンファレンスで話し合っている。ビールが好きな人は、ノンアルコールとアルコール入りの違いを研究をしながら、本人の試飲により、意向を確認して用意をしている。意思表示が困難な方は、カンファレンスのケース記録からニーズを引き出すようにしたり、本人が選ぶことで意向が確認できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や来所時に今までの生活の様子や家族様との関わり、環境を伺いケアに生かせるように話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡単な家事やレクリエーション等声掛けしても促しても出来る方も少なくなってきたが出来る限り生活の中での活動を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で担当者を決めてモニタリングをしている。入居者様の現状に即した介護計画となるように気付きがあればその都度話し合い、家族様にも近況や通信を送り知らせている。日々のルーティン業務は誰が見ても対応認識出来る様“個別ケア表”に明確にしている。	入居時にはそれまでの生活をふまえた暫定のプラン(入居による不安を取り除ける。)を作成し、日々のモニタリングを担当職員が纏めて、毎月のモニタリングをおこない、その上で、計画作成者は纏を記入している。毎月の職員会議では多職種が参加をするカンファレンスをおこなっている。その方の状態により、3ヶ月~6か月で再アセスメントをおこない、サービス担当者会議(医療情報、家族の意向を事前に聞いたうえで、看護師、栄養士、介護士が入る)で、介護計画の見直しをしている。しかし、変化のある時や更新時は、その都度暫定のプランにして経過を見ている。	アセスメントやモニタリングなど介護計画の一連の記録を個人のファイルにひとまとめにされては如何でしょう。

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者と夜勤者との連携や朝礼時の引継ぎ他職種カンファレンスやケース記録からできる限りニーズを引き出し反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活習慣を大切に家族様の協力も頂き、1週間の予定レクを作成して、柔軟な支援ができる様活動に反映させる様に出来る限り工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加は、(公園サロンやパンの販売買い物へ等)徐々に参加、活動が出来るようになって来た。地域の方々との関わりも少しもてる様期待している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診時に体調の相談をして処方薬の変更や紹介された専門外来の受診等、家族様とも連携を密にして適切な受診につなげる。	入居時に主治医の希望を聞いている。現在全員が協力医療機関に変更され、月2回の訪問診療を受けている。認知症の専門外来には家族が付き添い、手紙や口頭で情報を提供している。眼科や皮膚科、整形外科は職員が付き添い受診している。歯科は毎週歯科衛生士の口腔ケアを受け、必要なら往診を依頼している。緊急時は看護師に指示を仰ぎ、協力医療機関の医師とも24時間連絡が取れ、往診を依頼できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調異変や気になる状態を看護師に報告、相談をしている。また、主治医にも気軽に相談でき、指示を仰げる体制を整備している(24時間オンコール体制)。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに医療機関に情報提供を行い、ご本人、家族様が安心できるよう連携を図っている。今年は、病院への見舞やカンファレンスを行い難い状況であった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化時の対応を説明している。状態により家族様、主治医、職員と今後を話し合い、方針を決めている。職員間では重度に伴ったケアの内容を話し合い、情報を共有し、急変時の連絡体制等を整備した。	入居時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」で説明し、「私の事前意思表明書」によって重度化された時にどのような支援を受けたいか、本人や家族に聞き取り署名捺印をもらっている。介護保険証の更新時と、看取りに入るときにその都度確認を取っている。いつでも管理者に電話できる体制での確かなアドバイスをもらえることから、職員は不安なく看取りの支援をおこなっている。エンゼルケアもみんなで行い、振り返りのミーティングをすることにより職員の心のケアをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、職員研修を行い、応急的な対応や状態確認を周知している。発生事項、判断に迷う時は、速やかに管理者、看護師に連絡をし、指示を仰ぐ体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定、日中想定で火災の消火、通報、避難訓練を入居者様、職員で行っている。また、防災マニュアルを作成し、自然災害時の対応を周知している。地域住民の参加はない。	非常災害マニュアルを作成しており、年2回の消防訓練は昼夜想定でおこなっている。夜間想定の際には消防署に来てもらっている。2階の利用者は、水平方向にベランダまで避難することを消防署からアドバイスされている。訓練では職員が消火器の扱い方を学んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が生活歴等の情報を共有し、把握に努めている。排泄や入浴等の場面ではドアの開閉等を極力最小限に努め、プライバシーの確保を行っている。	一人ひとりのこれまでの生活歴や思いを大切に、誇りやプライバシーを損ねないように日々の支援に活かしている。日頃からトイレや入浴時には羞恥心に配慮した声がけを心掛けている。ベッドでの排泄支援や入浴時もタオルをかける、正面に立たないなど細かい配慮をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の発した言葉の裏にまで思いを巡らせ、本人の意向を引き出す努力をしている。本人の「らしさ」に溢れた暮らしを支えられるように信頼関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ないところだけではなく、出来る所や、やっていること、分かることに楽しみやプラスの力にもしっかりと着目し、実際の行動をイメージし、対話を通じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所内では要望に応じ定期的に理美容を行っている。個別にて地域のネイルサロンや美容室へお連れしたり、本人の望むタイミングで整容できるよう手の届く範囲に物品がしまわれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を用い、リビングに併設されたキッチンでは調理中の匂いや音を感じることができる。利用者の個々の能力に応じて、準備や片付けなどを職員とともにやっている。利用者からのリクエスト献立として毎月15日をあてている。	栄養士と職員とで、利用者の好みを考えて献立を作成し、生鮮食料品以外の食材は業者に発注している。(コロナ禍以前は利用者と一緒に買いに行っていた。)利用者は包丁を持って野菜を切ったり、配膳や盛り付け、食器洗いなど、声がけしてできる範囲で参加してもらっている。特別献立の日は希望を聞き取り、うなぎや寿司などを提供している。おやつも手作りでホットケーキやお汁粉、ところても器具を用意して楽しんでいる。外食はしていないが行事の時には購入したお弁当やお寿司を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持つ職員がバランスを考え献立を立てている。食事の形態は入居者様の状態に合わせて変えている。おやつも手作りを提供する等好みに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、見守り介助にて口腔ケアを誘導している。毎週金曜に歯科往診があり指導や、治療を受けている。口腔内の知識を学び、ケアに活かしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握、確認し自立に向け定期的に入居者様の様子を見て声掛けにて誘導、支援している。場所がわかるようにトイレの表示を大きくし、急がせず、ご自身のペースを保っていただいている。	排泄表を活用してその方に合った排泄パターンを把握している。声がけが必要な方には直接的な言い方でなく、「ちょっと来て下さい。」等で誘っている。夜間は睡眠を重視し、その方に合ったタイミングで誘導したりパット交換をおこなっている。ポータブルトイレを使っている方は現在おられない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で確認している。便秘時には看護師が下剤の調整や水分補給の促し、乳製品、食物繊維、適度な運動、体操を取入れ便秘の解消に取り組んでいる。		

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	寝たきりや車いす利用者さんは、全介助にて、湯舟に浸かって頂いている	入浴日を決めて週2回は入浴できるようにしている。介護度の高い人も、介助できる職員が担当の日には浴槽に浸かることができている。入浴拒否の方は言葉かけや時間、対応する職員を替えてみるが、どうしてもだめな時は無理をせずに翌日に変更している。シャンプーや石鹸はそれぞれ個人の気に入ったものを購入してもらい使用している。浴槽の湯はオーバーフローで入ってもらい、ゆず湯やしょうぶ湯の季節湯や入浴剤も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、睡眠、体調等職員間で周知する。日中も居室やリビングのソファで静養されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	落薬や飲み残しが口腔内に無いよう注意し見守り、確認している。薬の変更、追加、注意事項は連絡確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや、得意分野を把握し声掛け参加していただく。楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり、または美容室やドライブなど楽しみに外出が出来る様に支援している。公園サロンにも参加して頂き地域の方との交流も出来る様に努めている。	近隣の散歩は日を決めて週2回は交代で行っている。早い目に、スケジュールを組んで、天ヶ瀬ダムや炭山までドライブに出かけ、外気に触れて、紅葉や桜を鑑賞している。お正月には初詣にも行っている。なじみの美容室に通われている方は送迎を支援し、職員がつきそってスーパーにノンアルコールビールや衣類を買いに行かれる方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さを理解し、その方の好みや希望に沿った買い物を感染予防に留意しながら出来、支払いをして楽しんで頂けるように工夫している。		

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様との電話の取次ぎや、手紙のやり取りを支援し、家族様と利用者様とのつながりを大切にし、安心していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新聞や本、雑誌が身近に手に取れる環境を作り、提供している。季節に応じた空調管理を行い、利用者様の居心地の良い空間作りに努めている。季節を感じられるような話題作りやメニューを工夫している。	日本家屋を改修して縁側や障子、襖、欄間など残して使用されているため、構造が複雑で段差もある。二階に上がる階段も急ではあるが、それがこの施設のいいところなのかもしれない。階段昇降機を導入しているが使用される方は一人で、他の方は階段を使用しており、日常生活の中でリハビリが自然におこなわれている。玄関には花が活けられ、柱と壁にハロウィーンの飾りがされている。調理場からは食事のいい匂いがして、食欲をさそっている。またリビングは2部屋に分かれており、利用者にとっては他者と離れたときに自分の居場所をつくることができ、落ち着いて過ごすことができる。各所にカメラを配置し、危険のないようさりげないが、しっかりと見守りがおこなわれている。テレビを見たり、本を読んだり、ぬりえや貼り絵など制作活動を職員と一緒にこなうなど、思い思いの過ごし方をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用し、利用者様同士で会話を楽しめたり、縁側で椅子に座ってゆっくりと休んだり静かに過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物やご家族の写真等を飾ったり椅子や机を置いて落ち着ける環境を家族様の協力のもと作っている。	一階は畳の部屋にベッドを置き使用されている。隣の部屋とは襖で仕切られているが、立派な欄間で施設というより自宅にいるようである。二階の部屋は全て窓が大きく配置され、風通しが良い。入り口には思い思いの表札が掲げられている。エアコン、電灯以外は、自宅で使用されていた思い入れのある家具を持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札をかけ、自ら迷わずに居室に行ける工夫をしている。歩行や階段昇降時の声掛け、見守り、介助などをし、安全に自立した生活が送れるようにサポートしている。		